



## 中村宏樹元所長が瑞宝中綬章を受章



中村元所長が令和5年春の瑞宝中綬章を受章されました。

先生は、1963年に東京大学工学部応用物理学科を卒業され、東京大学数物研究科で修士号取得後すぐに、東京大学工学部物理工学科助手に就任されました。そして、東京大学工学部物理工学講師（74年）、東京農工大学工学部助教授（79年）を経て、81年に分子科学研究所 理論研究系教授に着任されました。その後、理論研究系研究主幹、電子計算機センター長などを歴任され、2004年から2010年まで分子科学研究所所長、自然科学研究機構副機構長、理事として、分子科学研究所のみならず自然科学研究機構の運営等にご尽力されました。また、総合研究大学院大学の教授、専攻長、研究科長、評議員としても教育・研究に多大な貢献をされました。分子研所長ご退任後は、台湾国立交通大学教授としても研究を展開してられました。

先生は、様々な研究分野において普遍的に見られる分子やその集合体が引き起こす状態変化の重要かつ基本的機構である非断熱遷移過程の理論解明を進められ、とくに、1992年に、Zhu-Nakamura理論として世界的に知られている非断熱遷移理論を構築されました。Zhu-Nakamura理論は、従来理論

とは質的に異なり、非断熱遷移における全エネルギー領域かつ全結合強度領域に対して適用可能な理論です。この理論構築により、従来理論の提案から60年ものあいだ懸念事項であった非断熱遷移の未解決問題に終止符を打たれ、様々な化学動力学過程の解明を進められました。さらに、化学動力学制御と分子機能開発の基礎理論の構築も進められました。とくに、レーザーなどの外場中でZhu-Nakamura理論を駆使することにより、分子運動の制御、状態間遷移の制御に関する基礎理論の構築を進められ、分子の異性体間の変換や分子の選択的解離反応等を例に、様々な分子過程の制御や分子機能の開発も可能であることを示されました。また、Zhu-Nakamura理論を活用した新しい分子動力学法を開発し、従来の古典力学に基づく分子動力学法では扱うことのできない量子力学的効果を考慮し、化学および生体分子系における動的過程も解明を進められました。

このように、先生は、非断熱遷移理

論の構築をもとに、化学動力学制御と分子機能開発の基礎理論の構築、半古典分子動力学法の開発などの先駆的研究を展開され、化学反応を含む化学動力学諸過程の解明に大きく貢献してられました。先生のご研究には、普遍的な現象を確固たる数理物理学に立脚し、厳密に解析し、理解するという先生の研究観が見られます。また、寺田寅彦の言葉にあるように、（ご自身が貢献された）科学の進展により、次の不思議を見出し、それに向き合い、解決してこれ、夏目漱石の言う個人主義も見られます。中村先生のこれまでの様々なご貢献に対しての今回のご受章嬉しい限りです。

先生のことですから、まだまだ不思議を見出し続けておられることと思います。しかし、お疲れがでないよう、くれぐれもお身体をお願ください。瑞宝中綬章の受章、まことにおめでとうございます。

（斉藤 真司 記）



中村宏樹元所長が受章された瑞宝中綬章の勲記と勲章